

地方公共団体金融機構 第47回経営審議委員会会議録

1 日時及び場所

(1) 日時

令和8年3月5日(木) 14時00分～15時00分

(2) 場所

地方公共団体金融機構 第一特別会議室

2 出席委員の氏名

委員長	前田	栄治
委員	林	宏昭
〃	勢一	智子
〃	玉沖	仁美
〃	上崎	正則
〃	遠藤	尚秀

3 議事の概要

別紙のとおり

以上

地方公共団体金融機構

経営審議委員会委員長 前田 栄治

(別紙) 議事の概要

1 開会

委員長は、本会議は、地方公共団体金融機構経営審議委員会会議規則第5条第1項に規定する定足数に達しており、有効に成立している旨を報告したうえで、開会を宣し、議事に入った。

2 議事

- (1) 議案1 令和8年度事業計画(案)
- (2) 議案2 令和8年度予算(案)
- (3) その他報告事項

事務局 (議案及び報告事項について説明)

委員 機構特別利率の設定の際に、財政融資資金を下限としているが、民間の金利はどこまで参考としているのか。民間金融機関の貸付動向の状況はどうか。

理事長 民間の金利は参照していないが、一般的に、収支相償で設定した基準利率からさらに利下げを行う機構特別利率は、民間の貸出利率よりも低い。また、金利リスクから金利上昇局面では、一部の地方銀行は長期資金を一層貸しにくくなっていると聞いている。

委員 公立病院は8割が赤字の時代である中、貸付計画で病院事業債は大きく増えていないが、高額医療機器も対象ならば、もっとニーズは多い印象。

理事長 人件費上昇やコロナ後に患者が戻ってこないことなどにより、公立病院の経営が厳しいことは承知。一方で、機構資金は、段階的に縮減するという法規定がある。そのため、総務省と相談しながら、事業の集中と選択を行っているところ。ご指摘の病院事業や上下水道事業については、機構資金で支援すべき事業と認識。

委員 過疎対策について、全国的に人口減少が進む中で、過疎市町村の活性化というよりも、過疎地域の維持を目標とすべきではないか。

委員 過疎対策については、少子高齢化社会の中で、施設の整備から再編・統廃合にシフトしている。一方で、どこに住んでいても一定の生活をしていけるようにすることも重要。

委員 融資手続きの電子化の取組を評価する。昨今、郵便事情が悪く、紙ベースのやりとりにも日数がかかるため、効率的な需給の一助となる。

委員 地方財政史については、地方公共団体が現行制度を知るだけではなく、地方財政制度の変遷や制度の背景について理解することは、機構の使命である地方公共団体の人材育成に資するもの。

委員 地方公共団体の声に応じた経営・財務マネジメント強化事業の派遣回数
の上限見直しや、未利用団体への働きかけは素晴らしい。
特に、マッチング機能は地方公共団体にとって効果的。リストからアドバイザー
を選ぶとなれば、知っている人や聞いたことがある人を選びがちである。マ
ッチング機能により、新しい気づきを得られる機会となることを期待。

委員 研修・セミナーについて、オンラインが充実されてきているが、対面の良
さもある。例えば、小規模地方公共団体の職員が、JAMP・JIAMの研修に参
加し、仲間が出来る喜びがあるところ、対面の機会にも配慮してほしい。

委員 昨今、基金の運用に悩む地方公共団体も増えている。地方支援部の出
前講座のテキストは分かりやすく素晴らしい。また、少人数でも出張し講
義してくれ、非常にありがたい事業。

委員 機構の業務改善・DXの取組については、経費を多く掛けても良いので、
成果を上げてほしい。

委員長 最後に、地方公共団体金融機構法第32条第5項の委員会の意見書に
ついて、私の方で意見書（案）を作成したので、今から配付する。

（意見書（案）の配付）

委員長 この意見書（案）についてご異議はあるか。

（異議なし）

委員長 ご異議ないことから原案のとおりとする。この意見書については、代
表者会議にて報告いただきたい。

3 閉会

委員長は、議事を終了し、閉会を宣した。

以上